青梅市文化財ニュース

第　３６　号

平成　２年１１月１５日

発行　青梅市文化財保護指導員連絡協議会
青梅市郷土資料室
（青梅市駒木町 1-684 TEL0428-23-6859）

山ノ神・田ノ神

青梅市は関東山地と関東平野にまたがって拡がる、面積約104平方kmの広さです。市域の約66%。は山地と丘陵地で、残りは台地です。晩秋の野山を歩いていると、所々に山ノ神、田ノ神が祀(まつ)られているのを見かけます。現在、市民の多くは神様とあまり縁のない生活をしていますが、農業や林業に強く依存していた頃の人々は、これらの神様は身近な存在でした。

「山ノ神」は山で仕事をする人たちを守る神です。山で仕事をするといってもさまざまで、山菜をとる仕事、落ち葉掻きをして堆肥を作る仕事、薪を伐採する仕事、植林をして植木を育てる仕事などがあります。山で仕事をする人たちは、仕事の最中に事故にあったり怪我をしないように、安全に働けるようにと願をかけました。また、仕事がうまくはかどるようにとも神様に祈りました。神様の名前は、多くの場合「大山祇命(おおやまつみのみこと)」あるいは、「木花咲耶媛(このはなさくやひめ)」です。

青梅市の北部を占める成木地区は、古くから林業が盛んなところです。成木７丁目の小沢峠から黒山（標高 842m）へ向かう登山道の脇には、所々に山ノ神が祀られています。小沢峠から約20分のところにあるベンチの近くには、２基の山ノ神があります。右側のものは人造石で、約14cmの基壇の上にのる高さ約25cmの建物です。建てられた年代や建てた人については不明ですが、祠(ほこら)の背後には「八万宮」と彫った偏平な自然石が建てられています。左側のものは寛政11年（1799）４月に建てられたもので、高さ41cmの塔身には「熊野三社大権現」と彫られています。そこから10分ほど進んだところにも山ノ神があります。この祠は伊奈石（砂質凝灰岩）で作られています。加藤和歌太郎氏が大正８年（1919）２月に建てたもので、高さ60cmの塔身には「大山祇命」と彫られています。さらに、約15分登ったところにある山ノ神は「大山祇尊」「昭和12年之春」と彫られています。

一方、田ノ神は、稲を守り、稲作の豊穣をもたらす神様です。地方によっては農神(のうがみ)、作神(さくがみ)、作(つく)り神と呼んだりしています。現代は肥料や農薬がそろい、また毎年の気象観測によって農業気象もある程度予測することが可能です。このため田畑の作物に悪い病気が流行したり、害虫が大量に発生しても適切に対処できますが、昔はそうはいきませんでした。そのため、田や畑の一画に田ノ神を祀り、または、自宅の敷地内にも田ノ神を祀っていました。

現在でも、目立つほどではありませんが、山ノ神や田ノ神は厚く信仰され続けています。

（文責　角田清美）